

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2019年8月8日

【四半期会計期間】 第5期第1四半期(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

【会社名】 株式会社C & F ロジホールディングス

【英訳名】 Chilled & Frozen Logistics Holdings Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 林原 国雄

【本店の所在の場所】 東京都新宿区若松町33番8号

【電話番号】 03-5291-8100

【事務連絡者氏名】 専務取締役 武藤 彰宏

【最寄りの連絡場所】 東京都新宿区若松町33番8号

【電話番号】 03-5291-8100

【事務連絡者氏名】 専務取締役 武藤 彰宏

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第4期 第1四半期 連結累計期間	第5期 第1四半期 連結累計期間	第4期
会計期間		自 2018年4月1日 至 2018年6月30日	自 2019年4月1日 至 2019年6月30日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
営業収益	(百万円)	26,711	27,430	107,612
経常利益	(百万円)	1,176	1,194	4,301
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(百万円)	784	789	2,782
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	950	520	2,770
純資産額	(百万円)	36,719	38,305	38,067
総資産額	(百万円)	80,083	80,017	79,653
1株当たり四半期(当期) 純利益	(円)	30.64	31.00	109.14
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	44.9	47.0	46.9

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移につきましては記載しておりません。

2. 営業収益には消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当第1四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

##### (財政状態の状況)

##### (資産)

資産につきましては、前連結会計年度末に比べ363百万円増加し、80,017百万円となりました。

主な増加は「営業未収金」723百万円であり、主な減少は「現金及び預金」509百万円、「投資有価証券」326百万円によるものであります。

##### (負債)

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ125百万円増加し、41,711百万円となりました。

主な増加は「1年内返済予定の長期借入金」281百万円、「長期借入金」1,134百万円、「退職給付に係る負債」180百万円であり、主な減少は「短期借入金」800百万円、「未払法人税等」745百万円、「賞与引当金」796百万円によるものであります。

##### (純資産)

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ238百万円増加し、38,305百万円となりました。

主な増加は「利益剰余金」509百万円であり、主な減少は「その他有価証券評価差額金」249百万円によるものであります。

以上の結果、自己資本比率は47.0%となりました。

##### (経営成績の状況)

当第1四半期連結累計期間における日本経済は、企業収益や雇用環境の改善により緩やかな回復傾向にあるものの個人消費の動きは鈍く、また、米中貿易摩擦や英国のEU離脱問題等、海外の政治・経済情勢の不確実性の高まりもあり、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループが軸をおく低温食品物流業界におきましては、ライフスタイルの変化などを背景に引続き冷凍・冷蔵食品の需要は堅調に推移しております。しかしながら、車両や庫腹の逼迫等物流設備の不足感が一段と厳しくなる中、顧客ニーズへの対応に向けたコストの見直し及び労務コンプライアンスへの対応を含めた労務費の増加、さらには燃油費等の高止まりなど「食の安心と安全」を担保する高品質な物流サービスを提供するためのコスト増により、当社を取り巻く環境はより一層厳しくなっております。

このような環境の中、当社グループは2019年4月より第二次中期経営計画（2020年3月期から2022年3月期まで）をスタートいたしました。「新たなインフラ整備と営業開発の推進」を基本方針とし、積極的な設備投資によりDC事業、TC事業それぞれに新たな拠点開発を進め、それらを100%活用できる営業開発を推進し、各々の得意分野を一体化した顧客サービスを提供することにより、物流品質の更なる向上と業容の拡大を進めてまいります。初年度となる2020年3月期は、大型設備投資による固定費の負担増加が想定されるなか、持続的成長を実現するため、コスト構造の見直し、適正な料金収受の推進、働きやすい職場環境づくり等に取り組んでまいります。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績につきましては、営業収益は27,430百万円(前年同期比2.7%増)、営業利益は1,128百万円(前年同期比7.7%減)、経常利益は1,194百万円(前年同期比1.5%増)となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、789百万円(前年同期比0.6%増)となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

##### TC事業（通過型センター事業）

一部業務の撤退(2019年3月)の影響はあったものの、コンビニエンスストア事業が堅調であったことなどにより営業収益は18,210百万円(前年同期比1.1%増)となりました。

セグメント利益につきましては、内製化による外注費の削減はあったものの、労働力確保による労務コストの増加等により1,192百万円(前年同期比8.7%減)となりました。

**DC事業（保管在庫型物流事業）**

既存店所における共同配送等の取扱物量の増加等により、営業収益は8,746百万円(前年同期比6.4%増)となりました。

セグメント利益につきましては、労務費の増加はあったものの、グループ内の既存施設の相互利用及び倉庫荷役の適切な管理等により972百万円(前年同期比12.8%増)となりました。

**その他**

警備輸送業・病院等関連物流業・人材派遣業・保険代理店業等により営業収益は473百万円(前年同期比1.2%減)、セグメント利益は73百万円(前年同期比27.0%減)となりました。

**(2) 経営方針・経営戦略等**

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

**(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題**

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

**(4) 研究開発活動**

該当事項はありません。

**3 【経営上の重要な契約等】**

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	100,000,000
計	100,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年6月30日)	提出日現在発行数(株) (2019年8月8日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	25,690,766	25,690,766	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	25,690,766	25,690,766		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2019年6月30日	-	25,690,766	-	4,000	-	1,000

##### (5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (6) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

2019年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 233,500	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 25,401,900	254,019	-
単元未満株式	普通株式 55,366	-	-
発行済株式総数	25,690,766	-	-
総株主の議決権	-	254,019	-

- (注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が4,752株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数47個が含まれております。
- 2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社の自己株式55株及び上記機構名義の株式のうち52株が含まれております。

## 【自己株式等】

2019年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社C & F ロジホール ディングス	東京都新宿区若松町33番 8号	233,500	-	233,500	0.908
計	-	233,500	-	233,500	0.908

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(2007年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(2019年4月1日から2019年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,897	5,387
営業未収金	11,725	12,448
原材料及び貯蔵品	283	285
その他	1,258	2,002
貸倒引当金	5	5
流動資産合計	19,158	20,119
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	19,391	19,207
機械装置及び運搬具（純額）	4,428	4,503
土地	17,333	17,406
リース資産（純額）	8,800	8,676
建設仮勘定	364	330
その他（純額）	126	153
有形固定資産合計	50,445	50,277
無形固定資産	701	683
投資その他の資産		
投資有価証券	4,175	3,849
長期貸付金	101	100
繰延税金資産	2,616	2,467
その他	2,469	2,535
貸倒引当金	14	15
投資その他の資産合計	9,348	8,937
固定資産合計	60,495	59,898
資産合計	79,653	80,017



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
営業未払金	4,212	4,134
短期借入金	2,600	1,800
1年内返済予定の長期借入金	1,655	1,936
リース債務	1,833	1,824
未払法人税等	911	166
賞与引当金	1,717	921
役員賞与引当金	79	17
設備関係支払手形	140	89
その他	5,016	6,206
流動負債合計	18,168	17,096
固定負債		
長期借入金	6,388	7,522
リース債務	7,586	7,453
繰延税金負債	245	243
再評価に係る繰延税金負債	404	404
退職給付に係る負債	6,578	6,758
資産除去債務	1,787	1,792
その他	427	439
固定負債合計	23,418	24,615
負債合計	41,586	41,711
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,000	4,000
資本剰余金	5,715	5,715
利益剰余金	27,531	28,040
自己株式	288	288
株主資本合計	36,957	37,467
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	863	613
土地再評価差額金	267	267
為替換算調整勘定	46	46
退職給付に係る調整累計額	162	189
その他の包括利益累計額合計	386	110
非支配株主持分	722	728
純資産合計	38,067	38,305
負債純資産合計	79,653	80,017

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)
営業収益	26,711	27,430
営業原価	24,490	25,235
営業総利益	2,221	2,195
販売費及び一般管理費	999	1,067
営業利益	1,221	1,128
営業外収益		
受取利息	4	1
受取配当金	34	33
受取賃貸料	26	23
持分法による投資利益	14	17
その他	57	55
営業外収益合計	137	131
営業外費用		
支払利息	66	59
為替差損	99	-
その他	17	5
営業外費用合計	183	65
経常利益	1,176	1,194
特別利益		
固定資産売却益	34	11
特別利益合計	34	11
特別損失		
固定資産除売却損	0	2
特別損失合計	0	2
税金等調整前四半期純利益	1,210	1,203
法人税、住民税及び事業税	123	149
法人税等調整額	333	256
法人税等合計	457	406
四半期純利益	753	796
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失( )	31	7
親会社株主に帰属する四半期純利益	784	789

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)
四半期純利益	753	796
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	211	244
為替換算調整勘定	27	0
退職給付に係る調整額	9	27
持分法適用会社に対する持分相当額	3	5
その他の包括利益合計	197	276
四半期包括利益	950	520
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	982	512
非支配株主に係る四半期包括利益	31	7

## 【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
減価償却費	1,170百万円	1,231百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

## 1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月27日 定時株主総会	普通株式	254	10.00	2018年3月31日	2018年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

## 1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月26日 定時株主総会	普通株式	280	11.00	2019年3月31日	2019年6月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	T C 事業	D C 事業	計		
営業収益					
外部顧客に対する 営業収益	18,010	8,222	26,232	479	26,711
セグメント間の内部 営業収益又は振替高	120	35	155	190	346
計	18,130	8,257	26,387	670	27,058
セグメント利益	1,305	861	2,167	100	2,268

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、警備輸送業・病院等関連物流業・人材派遣業・保険代理店業等を含んでおります。

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,167
「その他」の区分の利益	100
セグメント間取引消去	47
全社費用(注)	999
四半期連結損益計算書の営業利益	1,221

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	TC事業	DC事業	計		
営業収益					
外部顧客に対する 営業収益	18,210	8,746	26,957	473	27,430
セグメント間の内部 営業収益又は振替高	112	29	141	197	339
計	18,322	8,776	27,098	671	27,770
セグメント利益	1,192	972	2,164	73	2,238

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、警備輸送業・病院等関連物流業・人材派遣業・保険代理店業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,164
「その他」の区分の利益	73
セグメント間取引消去	42
全社費用(注)	1,067
四半期連結損益計算書の営業利益	1,128

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
1株当たり四半期純利益	30円64銭	31円00銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	784	789
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円)	784	789
普通株式の期中平均株式数(千株)	25,614	25,457

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

**第二部 【提出会社の保証会社等の情報】**

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年8月8日

株式会社C & F ロジホールディングス  
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 渡辺 力夫 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 上林 礼子 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社C & F ロジホールディングスの2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社C & F ロジホールディングス及び連結子会社の2019年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。